小豆島プロジェクト活動報告書

小豆島小学6年生 追大訪問企画 編

文責：
浅野 うらら

今年は新たな試みを!!

今年度も参加！

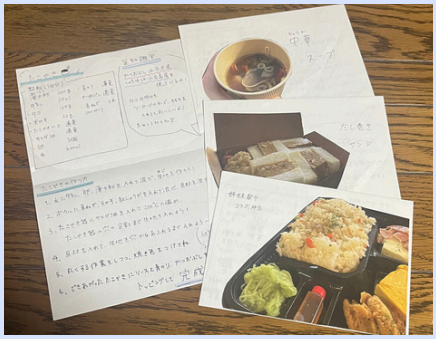
毎年夏に開催されている「オリーブフレンドリーキャンプ」（旧・いばらきフレンドリーキャンプ）に、今年度も参加させていただいた。茨木市と小豆島町の姉妹都市交流の普及活動を行っている「小豆島プロジェクト」に今年度も企画のオファーをいただいた。今年度は新たな試みとして、子どもの居場所づくりに取り組む追手門学院大学の学生団体「追大パーク」と合同で企画運営を行った。

今回のテーマと内容

今年は「食育」をテーマに企画を考案した。実施した内容は、クイズや神経衰弱、コップタワー、魚釣り、疑似収穫体験など、さまざまなゲームや体験を行った。子どもたちが楽しみながら「食」について考えられるよう、遊びの要素を多く取り入れた。また、頭だけでなく体も動かしながら学べるように工夫し、身近なところから食に関心をもってもらえるよう意識した。

こだわりポイント

今年度は、新校舎として完成したアカデミックベースを使用し、大学内を巡りながらゲームを進める形でイベントを実施した。小学生たちが実際に大学の中を歩き、見て、体験することで、大学という場所をより身近に感じてもらえる機会になったと思う。また、今年は追大パークとの合同開催となり、これまで以上に多くの人が関わる大規模なイベントを実現することができた。運営の幅が広がったことで、新しい視点やアイデアも生まれ、より充実した内容になったと感じている。さらに、最後にプレゼントした料理のレシピには、小豆島プロジェクトで実際に作った「姉妹都市コラボランチ」の料理を取り入れた。これまでの活動の流れを大切にしながら、食を通して両地域のつながりを感じてもらえるよう工夫したのも、今回の大きなこだわりである。



開催までの道のり

7期生6人で企画運営を行うのは初めてだったため、当日まで緊張と不安でいっぱいの中、準備が始まった。最初のうちは、どのような内容で構成するかのアイデア出しがうまく進まず、何度も話し合いを重ねた。昨年の企画を引き継ぐという点や、小学生に楽しんでもらえるかという点でも、不安がなかなか消えなかった。それでも、中川さんの温かいサポートや、一緒に企画を作り上げていったメンバーとの支え合いのおかげで、無事に当日を迎えることができた。当日も緊張はあったが、プロジェクトメンバーや職員さんなど多くの方の協力があり、最後までやり遂げることができた。今回のイベントは、周囲の助けがあってこそ成功したものであり、改めて協力して作り上げることの大切さを実感した。

当日の様子

当日は、両地域の小学生がゲームや体験を通してうまく打ち解けられるかどうか、とても不安だった。初めは緊張した表情の子も見られ、うまく交流が生まれるか心配していた。しかし、クイズや魚釣り、コップタワーなどを進めるうちに自然と笑顔が増え、協力し合う姿も見られるようになった。ゲームを終えて教室に帰ってくる小学生たちの表情は、開始した時よりもずっと明るく、楽しそうで安心した。両地域の小学生同士で話を弾ませたりする様子も見られ、イベントを通して新しいつながりが生まれたように感じた。にぎやかで温かい雰囲気の中で、一日を無事に終えることができ、とても充実した時間になった。

【編集後記】

今年のオリーブフレンドリーキャンプでは「食育」をテーマに、子どもたちが楽しみながら学べる企画を目指した。1時間という限られた時間の中で、少しでも思い出に残るような体験をしてもらえるように構成を考えた。新しくできたアカデミックベースを広く使い、クイズやコップタワー、魚釣りなど、頭と体の両方を使って楽しめる内容になるよう意識した。今回は小豆島や茨木市の特色だけでなく、「食育」というテーマにも焦点を当て、食の大切さや地域とのつながりを感じてもらえるように工夫した。集めた食材で完成する料理の「レシピ」をプレゼントし、思い出として形に残るものを取り入れた。初めての6人での運営で、準備の段階では不安も多かったが、たくさんの方の支えによって無事にやり遂げることができた。子どもたちの笑顔や楽しそうな姿を見ることができ、改めて人とのつながりや協力の大切さを実感する機会となった。